



片柳中学校だより

片柳

第4号 令和6年7月1日発行

さいたま市立片柳中学校

さいたま市見沼区大字御蔵551

TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

地域貢献の意義について

校長 加藤 明良

梅雨本番を迎え、毎日蒸し暑い日が続いています。例年より梅雨明けが早い予報も出されていますが、熱中症への警戒を高めてまいります。

先月初旬の学校総合体育大会では、3年生を中心にどの部活動も勝利をめざして最後まで粘り強く戦う姿が見られました。バドミントン部男女、卓球部男女、団体、個人と県大会出場を決めてくれました。また、陸上部は通信陸上県大会で見事3名が全国大会標準記録を突破し、8月に福井県で行われる全国大会出場権を得ることができました。特に棒高跳びは昨年度に続き全国大会優勝の期待がかかります。体調管理を万全に行い、片中生の県大会、関東・全国大会での活躍を願っています。

さて、先日は、見沼区避難所運営訓練が片柳中、片柳小、海老沼小を会場に実施され、自宅から近い避難場所の学校へ中学生も期末テスト前にかかわらず80名ほどが参加してくれました。訓練では、震度6の地震が台風襲来時に発生したとの想定で避難所開設とその運営を確認するものでした。総務班、救護班、食糧班など6つの班に分かれて避難者の受付、マンホールトイレの組み立て、非常食の炊き出しと配布等、いざという時に大変重要な仕事を体験しました。中学生が避難所運営訓練に参加することになって3年目ですが、自治会長をはじめ、地域の方々からは今年もお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございます。

この訓練への参加することの教育的意義は何でしょうか。一つは分担された仕事の内容を体験し、学校が避難所になったときに具体的にどんなことをするのか、地域防災の実態を知り、自分たちで何ができるのか考える機会を得ること。二つめは地域の様々な世代の大人たちと交流し、コミュニケーション力を高める機会になること。三つめは、自分のしたことが地域の方々から喜ばれ、褒められることで自己有用感や自己肯定感が高まること。この三つ以外にも参加生徒の保護者へ地域防災のPRや将来の地域防災の担い手づくりなど様々な意義が考えられます。

次の地域ボランティア活動は7月13日の染谷八雲神社天王様夏祭りです。このお祭りに参加することの教育的意義は次の点にあると考えます。お祭りに参加することで、地域の伝統文化を体験し、それを知ること。お祭りを地域の方も含めてみんなで盛り上げることで、協調性が高まり、一体感を持ち達成感を得ること。お祭りに向けて準備や様々な協力や支援をしていただいた地域の方々の思いを感じることで、そして感謝の気持ちを持つこと。など数多くの意義や効果があると言えます。そして、何よりも昨年地域のお年寄りから、子どもたちの元気な声が聞けてうれしい、私たちも元気をもらえると語っておられたことを思い出します。地域貢献活動は、学校の授業だけではなかなか得られない貴重な体験ばかりです。ぜひ、積極的に参加して、地域を知り地域に学ぶこと、そして自分たちの存在は地域の人々にとっても大切なものであり、様々な人たちの協力や支援があって自分たちが学んでいることを感じてほしいと思います。